

別紙

<中小企業者の意見の詳細>

(安定的な資金調達)

- ・ 民間金融機関が新たな融資に後ろ向きな状況であったり引き締めに入った時に、政府系金融機関は必要。
- ・ 不況時、民間金融機関が厳しい貸し渋り、貸し剥がしを行なっている時、資金調達にに応じてくれた。
- ・ 売上金が回収できなくて困ったとき、国金で借りる事ができてうれしかった。その時、信用金庫の場合、早く返済してくれと言われたので、カードローンの500万円をなんとか返した。その点、毎月しっかり返済していると国金の場合は違う。
- ・ 政府系金融機関が必要と実感したのは、民間の銀行が必要資金の半分しか融資してくれないとき、協調融資で対応してもらったときである。
- ・ 民間金融機関（特に都市銀行、地方銀行）は、強い立場にたつて企業の力量を見透かしたように金利の上昇の要請が頻繁にある。政府系金融機関は、約定を確実に遂行し取引姿勢が安定している。
- ・ 商工中金の場合、業績の善し悪しにあまり関係なくコンスタントな資金供給を考えてくれるところが、一般金融機関と異なるところ。
- ・ 民間金融機関の貸し渋りの時に大いに助かったことを覚えている。政府系金融機関は絶対に残すべきだと思う。
- ・ 民間金融機関で融資を申し込みれば借りられるだろうと考えている経営者は多いと思うが、実際のところ親身になって相談に対応してくれるのは、政府系金融機関であると考えている。
- ・ 民間金融機関では大阪府の保証協会の利用を要求された。弊社の内容の把握が不十分である。資金を必要とする時は敬遠され、不要の時のみ資金の借入れを進められ非常に不快である。民間の金融機関は豹変する。支店長が変わるととくに顕著である。一貫性がない。民間金融機関は信用出来ない。
- ・ 当社が借入れた3年ほど前は、現在の金融状況とは正反対の時で、民間金融機関の金融引き締めがピークであった。しかしながら、審査は厳しかったが、政府系金融機関は取り組みが熱心であった。
- ・ 創業時以後10年間全てにおいて商工中金がバックアップしてくれ、地震後の緊急融資も快く引き受けてくれた。また、新工場建設融資についても民間は動かなかつたが、商工中金は迅速に調査し決定した。
- ・ 政府系は昔から見たらサービスが向上した。逆に民間は低下している。民間は優良事業所には足を運ぶが、業績の悪いところには足を運ばない。そこにいくと最近の政府系は取引姿勢が安定している。
- ・ 借入可能額でありながら、長期借入を組替えしたばかりで保証協会の了承が得られないという理由で借入できず、企業存続の危機感をおぼえる。現状を説明のうえ商工会

議所に相談し、国民生活金融公庫の制度融資を申し込み、売上増にするための具体的な対策を提示することにより、我社の内容を理解してもらい、無担保・無保証の借入をすることができた。

- ・ 事業用の必要な土地の買い増しであっても民間金融機関は駄目だった。民間金融機関はその時その時の流れのようなところがあって、今は設備資金は駄目とか運転資金は駄目といわれた事が多々あった。政府系はいずれも全部対応してくれた。
- ・ 景気によって、民間金融機関の業況によって方針が変わり自社の必要な時に対応してくれないときがある。政府系の方が対応が一貫している。
- ・ 民間金融機関は、全体的に損得勘定が優先される為、目先の取引に忙殺されがちだ。政府系金融機関は、やる気のある・技術のある会社には育成する使命を持っているように見受けられる。やる気のある会社・地域を支援して育成してもらえらると思う。
- ・ 金融機関がプロパー資金を減少させて、保証協会付きの制度資金を中心に融資している時、金融ビッグバンといわれた時の民間金融機関の逃げ腰はひどかった。デフレという社会の現象でバランスシート不況が当然おこったと思うが、そういう理解はなく日銀と金融庁のせいにした。
- ・ 外部より経営者が入り、銀行との関係が悪化。借入れができなくなり運転資金不足となり、中小企業金融公庫に申請し、資金調達ができ倒産回避をした。
- ・ 運転資金の調達に不便はなかったが、金融調達窓口で政府系金融機関を加えて安定性を得たかった。現に大口不良債権発生時に商工中金の変わらぬ支援姿勢は強力なバックボーンとなった。
- ・ 安定期にはスムーズな融資が出来るが、厳しい時期が2～3期続くと、民間の金融機関は担保追加や保証人追加など益々厳しい審査が行なわれる。
- ・ 我々中小企業は、資金調達を金融機関よりの借入にて賄う以外、他に手段がないのが現状である。資金調達としての窓口である民間金融機関は、収益に傾注しがちで金融ビッグバン以降、以前にもましてその傾向は強く、特に企業の業況悪化時における民間金融機関の対応は大変厳しいものがある。民間金融機関に対する現在の環境を考えるとその傾向は先鋭化することは有っても緩和されることは難しいと思わざるをえない。中小企業が第一に望んでいるのは、資金の安定供給であり、その点政府系金融機関は企業の好不況の波を理解し、企業の業況説明に耳を傾けてくれる。
- ・ 政府系金融機関の存在そのものに安心感がある。おかげで勇気をもって将来へ事業展開できる。

(経営革新等転換期、業容拡大時の資金調達)

- ・ 政府系金融機関は新規の設備導入の際相談できる。民間金融機関は理解しようとしなない。
- ・ 政府系金融機関は、零細製造者が販売活動にも分野を広げて企業の安定を行う時に必要。
- ・ 法律の改正により設備資金が必要になった時、メイン銀行からは必要資金の半分しか融資を受けられず、相談の結果、中小企業金融公庫より残りの半分を調達できた。
- ・ 平成15年12月炉材部門を分社し設立。分社前の都市銀行担当者は避けて、半年間、

銀行より100mの事務所に一度も来なかった。

- ・ 売上の規模が大きい会社ではないので自社事務所を購入の時に民間金融機関は担保を重視しとても厳しかった。金額の大きい借入れもなく500万程度が限界で保証人等も社外になくとても大変であったときに政府系金融機関は融資してくれた。
- ・ 当社が経営する店舗を移転するため、閉店したコンビニ店舗を購入しようとした時。当時のメインバンクの支店長が別の会社に購入させたいため、私の方へ圧力をかけて来た。当然融資も断られた。その時、中小企業金融公庫にお世話になり、現在順調に営業をしている。
- ・ 先代が急逝し、経営の安定化のため、借入をして大幅な経営改革の必要性に迫られた。しかし、民間金融機関では金利が高く、それなりの担保も必要であった為、断念しかけた時、商工会議所の相談窓口で国民生活金融公庫との出会いがあり、低金利・無担保にて借入ができ、経営改革のきっかけとなった。
- ・ 生産品種を高付加価値製品にシフトし、多品種少量生産に切り替えるため、工場設備の新規導入、更新、ライン・レイアウトの大幅な変更を計画しており、大規模な設備投資を必要としていた。
- ・ 新店舗出店に向けて資金借入が必要になったが、担保力の不足で民間金融機関は厳しい対応だった。
- ・ 新店舗を構えるにあたって資金が必要となり、都銀、地銀では保証人等の問題で借りにくかったが、国民生活金融公庫からはスムーズに借りられた。
- ・ 新規分野であるビジネスホテル業に進出の際、中小公庫・商工中金の両行に事業計画を良く理解してもらい気持ちよく融資してくれた。勇気づけられたと感じている。事業計画に対する理解・評価力は民間金融機関に比べかなり高いと思う。
- ・ 新規事業の研究開発費にかなりの資金が入り用で、本来操業の資金繰りで大変であった時、新分野などの資料を全部揃え説明したところ、かなり理解してもらえ借入ができた。更に経営革新の認定を取得しているから、金利が低くなると前向きに取り組んでもらえた事は、本当に困っている時であったので、希望がもて力をもらえたくらい有り難い事だった。
- ・ 事業用土地の購入のための資金を必要とした。民間銀行と違って、対応が早かった。
- ・ どちらかと言えば民間は実績主義、新しい企画や投資には消極的な貸出姿勢をとる。政府系は積極的であり、支援的姿勢をとってくれた。

(業況不芳時等の再生に関わる資金調達)

- ・ 亡父から事業継承後、売上利益とも減少傾向になり、資金繰りが悪化していた。担保第三者保証人もなく、商工会議所に相談しマル経資金の推薦してもらった。
- ・ 平成14年度の売上が激減し資金繰りが苦しくなった時、政府系金融機関に融資してもらい大変助かった。
- ・ 政府系金融機関は事業が苦しいときも対応が良い。民間銀行は対応が悪いと感じられた。
- ・ 苦しい時の対応が違った。企業は良いときもあれば悪い時もある。自社(民間の金融機関)の具合で対応されては困る。

- ・ DDS(デット・デット・スワップ)の取り組みに際し、民間金融機関に対して主導的役割を果たしてもらった。
- ・ 再生期で2年間返済条件変更をし、それが終わった時、中小公庫が新規資金を出して借換えができた。
- ・ 減収減益が続き、キャッシュフローが悪化、好転させるために人員増をおこなったが予定した売上げが上がるまでに時間がかかり、その間の資金繰りに資金が必要となった。
- ・ 衣料品卸で最盛期は年商4億円を売り上げていた。最近1億5千万円を推移している状況であるが業況は大変厳しい。国民生活金融公庫より無担保無保証の融資を受けて非常に助かった。
- ・ BSE、鳥インフルエンザ、人口減などにより、売上不振(利益減)によって運転資金が不足し、厳しい状況となっていた。
- ・ 景気が低迷し、受注の確保に苦慮していたなか、受注の幅を広げるために、新しい機械設備(ワイヤー放電加工機)を導入に踏み切った際に、政府系金融機関から借入れした。今顧みると、本設備の導入により経営の改善につながったと思われる。

(創業時の資金調達)

- ・ 民間は資金枠が少なく、創業時貸し渋りの為、商工中金が融資をしてくれなければ会社の設立は出来なかった。
- ・ 新規開業時、実績も信用もないとき、民間では借りにくく、金利も高く、商工会議所にこの様な相談ののってもらい助かった。
- ・ 創業間もない頃、担保提供できる資産が乏しく、民間金融機関から十分な信用供与を得られなかった状況下、政府系金融機関(中小金融公庫)に相談に乗ってもらい必要資金を融資してもらった。
- ・ 当社も14年前新規開業であった。当初、民間金融機関で開業資金の申込をしたがダメであったので、政府系金融機関に申込をし、融資が実行された。今日があるのも中小公庫のお陰である。
- ・ 事業自体の将来性、先駆性を高く評価してくれる。民間金融機関と違い、利益第一主義でない。
- ・ 技術、ノウハウを十分に習得し、また、同業他社にない技術を得て、独立開業し、新規顧客を獲得でき、受注したが、材料等仕入れのための現金が無く工事開始時期が迫ってきたため、困っていた。
- ・ 企業のリストラにより独立創業したときや創業後の事業資金調達に迅速に対応してもらい、安定的な資金繰りが行なえている。
- ・ 開業当初は、金融機関の審査が厳しく融資実行が出来なかったところ国民生活金融公庫から融資してもらい開業にこぎつけられた。
- ・ サラリーマンをしていたが、退職し開業を計画。資金調達に苦慮していた。
- ・ 創業時は、保証人、担保物件等が十分ではないので、民間では無理である。更に保証人を付けた上で保証協会も付けるという強制があって矛盾している。